

自動車廃棄物の 適正処理と 資源循環

EU規制が変える
自動車リサイクルの未来



2026

EU循環経済 政策の全体像

サーキュラーエコノミーとは？

これまでの「大量生産・大量消費・大量廃棄」の経済モデルから、製品が寿命を迎えた後もごみとして捨てるのではなく、資源として繰り返し利用し続ける社会（＝循環型社会）を作るシステムです。

環境負荷低減と経済成長の両立を目指します

資源循環の大きな流れ

STEP 01

廃棄物発生予防

そもそもごみが出にくいような設計を推進します。

STEP 02

エコデザイン

リサイクルしやすい材料の選択や解体しやすい構造（デザイン）を義務付けます。

STEP 03

再利用と修理

修理や部品の交換により、一つの製品をできるだけ長く使い続けます。

STEP 04

回収と選別

使用済みの製品を効率的に回収し、材料ごとに正確に選別する仕組みを強化します。

STEP 05

再資源化

回収した材料を新しい製品の原料として生まれ変わらせます。
(マテリアルリサイクル)



PPWRとEUプラスチック税の要点

EUは「PPWR」と「プラスチック税」という2つのルールでプラスチックごみの削減とリサイクルを企業に義務付けています。

● PPWR (包装規則)



製品の「包装」に関する新ルール。過剰な包装をなくし、リサイクルを促進。

- ✓ **リサイクル目標の義務化**
包装材の種類ごとに、リサイクルしなければならない割合が厳しく設定されます。
- ✓ **再生材含有率の義務化**
ペットボトル等には、一定割合以上の再生プラスチックを含めることが必須に。
- ✓ **過剰包装の禁止**
不必要に大きな箱や、空スペースが多すぎる包装が禁止されます。

● EUプラスチック税



リサイクルされなかったプラスチックごみに対して課される税金。

- **目的**
安易な処分（埋立・焼却）を防ぎ、リサイクルへ回すことを促す「罰金」的制度。
- **仕組み**
各国はリサイクルされなかった包装廃棄物の量に応じて、EUに税金を支払います。
- **影響**
税負担回避のため、リサイクル技術への投資や製品設計の改善が加速します。

ELV改正のポイントと日欧の差

● ELV規制改正案 3大ポイント

1 再生プラスチック25%義務化

新車のプラ部品重量の**25%以上**に再生材使用を義務付け。

2 車両循環パスポート

素材・修理・解体情報を全て記録したデジタル証明書（DPP）を導入

3 トレーサビリティの強化

部品・素材の「入口から出口まで」を完全に追跡。リサイクルプロセスの信頼性向上。

● 根本的なアプローチの違い

EUのアプローチ

マテリアルリサイクル

「資源を資源のまま使う」材料循環を最優先。



日本の現状

サーマルリサイクル

廃プラの約6割を焼却し、熱エネルギーとして回収「資源そのものは失われる」という課題。



INSIGHT

日本企業は「焼却中心」から「材料循環」への根本的な転換を迫られている。
一方で、リサイクル業者に求められるスペックは年々上がってきており、このままでは淘汰されていく未来も見える。

CARTOCAR

水平リサイクルとは？

使用済み自動車から取り出した部品や素材を、再び新しい自動車の部品・素材として利用する究極のエコシステム。

具体例

古いバンパーをリサイクルして、全く同じ品質の新しいバンパーの原料にする

3 KEY POINTS

01

高品質な資源循環

他の用途に格下げする「ダウンサイクル」ではなく、高い品質を保ったまま資源を繰り返し利用できる。

02

CO2排出量の削減

ゼロから石油を使ってプラスチックを作るよりも、リサイクル材を使うことで製造時のCO2を大幅カット。

03

資源の安定供給と価格安定

輸入資源への依存を減らし、国内で資源を循環させることで、部品供給と価格のリスクを低減。

技術課題： 樹脂多様性と 選別

CARTOCARの実現には、自動車に
使われる多様なプラスチックを
高精度で選別し、その履歴を追跡
する高度な技術が不可欠です。

⚠ 夢の技術、
でも現実は甘くない？

01 プラスチックの多様性

自動車には、PP、PE、ABSなど、多種多様な
プラスチックが使われています。これらが混
ざるとリサイクル品の品質が低下するため、
種類ごとに正確に分ける必要があります。

02 複合材料と塗装・接着剤

部品には、強度を上げるためにガラス織
維などが混ぜられていたり、表面に塗装
や接着剤が使われていたりします。これ
らを効率的に取り除く技術が課題です。

03 高度な選別技術

使用済み自動車を解体する際、センサーなど
を使ってプラスチックの種類や色を瞬時に見
分ける高度な自動選別技術が求められます。

04 トレーサビリティの確保

その再生材が、本当に使用済み自動車から
来たものなのかを証明し、品質を保証する
ための履歴追跡システムが不可欠です。

理想的なリサイクル手法であるCARTOCARですが、上記の様な
多くの課題があり実現は容易ではありません。

日本の対応 課題と 制度



自動車はグローバルの最先端産業であり、環境対応へのハードルは高いが、ビジネスチャンスでもある。



企業の先進的な取り組み **ACTION**

再生材の積極利用: トヨタやホンダ等はバンパー等に再生プラスチックを積極的に採用。
欧州企業との協業: 高度な技術を持つ現地企業とパートナーシップを強化。



日本が抱える構造的な課題 **ISSUE**

サーマルリサイクル依存: 廃プラの約6割が焼却。マテリアルリサイクルへの転換が遅延。
高品質な再生材の不足: 自動車部品レベルの高品質な再生プラ供給が追いついていない。



制度的な後押し：資源有効利用促進法 **LAW**

3Rの義務化: 企業の3R（リデュース・リユース・リサイクル）を法的に義務付け。
2025年改正: 製品設計段階からの資源循環配慮を強化し、企業の取り組みを支援。

CONCLUSION

まとめと お問い合わせ

EU規制は設計思想の転換を求めるものであり、日本企業は資源循環を前提とした事業戦略の再構築と、国内外での連携強化が急務となります。

🚩 未来のクルマづくりに向けて



EU規制の核心

EUの新しい規制は、単なるリサイクル率の向上だけでなく「設計段階から資源循環を組み込む」というものづくりの思想そのものの変革を求めています。



日本企業の対応

焼却中心から脱却し「CARTOCAR」のような水平リサイクルを事業の柱に技術開発と、国内外のパートナーとの連携が成功のカギとなります。



循環型社会への方向性

自動車リサイクルの進化は環境貢献だけでなく、新たなビジネスチャンスや産業競争力の強化にも繋がります。業界全体での挑戦が始まっています。

✉ お問い合わせ

CONTACT INFO

本内容に関するご質問やご相談は、お気軽にご連絡ください。

ワイコム株式会社

〒537-0023 大阪市東成区玉津1-9-10
☎ 06-6972-1251 ☎ 06-6972-6161